

一帯一路戦略と国際生産ネットワークに基づく 北東アジア国際物流システムの建設に関する研究

中国国家発展改革委員会総合運輸研究所研究員
王彦慶

この報告では、中国政府が公布した『シルクロード経済帯と 21 世紀海上シルクロードを共同で建設することを推進するビジョンと行動』に基づき、北東アジア国際生産ネットワークの構築や越境産業集積の創出といった発展が必要であるという要請の下、北東アジア国際物流の発展のための基礎が現在どのような状況にあるかを分析している。北東アジア国際物流における単一国家および国際協力のそれぞれの戦略的要請から、北東アジア国際物流システム建設への道筋と、そのために必要な行動を提示した。

北東アジア国際物流発展のために現存する基礎と戦略的要請に照らし、北東アジア国際物流システム建設の基本的な考え方として、「物流産業を先導とし、越境物流ルートの相互開通を通じて越境生産ネットワークを構築し、国際物流産業の育成を通じて越境の物流集積を創出する」ことを提起したい。併せて、この北東アジア国際物流システムの基本的な考え方に従い、中国の「一帯一路」戦略に基づく国際物流ルート建設、国際生産ネットワークに基づく越境物流集積の育成を検討すること、同時に北東アジア国際物流システムを構築するための国際的な共同行動をとることを提起したい。

北東アジア国際物流ルートの建設としては、主に「一帯一路」戦略の視点から、最初のユーラシアランドブリッジであるシベリア鉄道物流ルート、その第一支線である綏芬河—満洲里の総合物流ルート、第二支線であるウランバートル—天津港鉄道物流ルートおよび図們江地域の中国・ロシア・北朝鮮の越境総合物流ルート、丹東地域の中国・北朝鮮の越境総合物流ルートの分析を行った。その分析にあたっては、陸上の国際物流ルートを主としながら、海上のルートにも配慮している。

北東アジア越境物流集積の育成としては、主に北東アジア国際生産ネットワークの構築を進める必要があるという要請から、陸上国境の口岸（国境通過点）、開港、中心都市等越境協力の核心となる地域を中心に、越境生産ネットワークの整備に寄与する基盤や先導役を発揮する越境物流集積を育成することを意図している。

北東アジア国際ネットワークシステムの建設に関わる北東アジア関係国による、「共に建設・享受し、Win-Win のために協力する」という国を越えた共同行動を呼び掛けたい。共同行動の協調メカニズム、越境物流投資グループの設立、国際物流輸送の主体の育成、越境物流ルートの改善、輸送円滑化協定の調印や国際複合輸送システムの建設等の各方面で共同行動を起こす構想を提案したい。

[ERINA にて翻訳]